

釧路のヤチボウズ～観察と文献から～

釧路市 加藤ゆき恵

釧根地方を特徴づける景観のひとつに、ヤチボウズ(図1)が一面に広がる風景がある(図2)。釧路方面行き(下り)の根室本線に乗っていると、十勝の浦幌町あたりから線路際にヤチボウズが現れ始め、直別信号場を過ぎたキナシベツ湿原、そしてパシクル沼から古瀬信号場にかけて、湿原やハンノキ林の下におびただしい数のヤチボウズが並ぶ姿が見られる。花咲線、釧網線沿いにも見事な場所がある。

ヤチボウズを作る代表的なスゲ、カブスゲ *Carex cespitosa* L. は、北海道内でも分布



図1 釧路町別保の離農跡地のヤチボウズ



図2 花咲線の車窓から見えるヤチボウズ群落 別保～上尾幌)

域が太平洋側(特に東十勝から釧路・根室)に偏っている(伊藤ほか1990)。カブスゲ以外にもヤチボウズを作るスゲは数種類あるが(勝山2015a, b, 星野ほか2011)、一番目立ち、ヤチボウズの背が高くなるカブスゲがたくさん生えているため、釧路周辺ではヤチボウズがいたるところで観察できる。ヤチボウズの大群落が見られるのは釧根地域の特徴で、釧路市丹頂鶴自然公園内のヤチボウズ群落は釧路市の天然記念物に指定されている。

本州でも、主に標高が高い場所にある湿原でヤチボウズが見られる。その中で、山梨県山梨市にある乙女高原ではタニガワスゲ *Carex forficula* Franch. et Sav. のヤチボウズがまとまった群落を形成しており、地元ボランティア団体「乙女高原ファンクラブ」の働きかけによって、2018年に山梨市の天然記念物に指定された(植原2018)。

ヤチボウズを作るスゲ

ヤチボウズは漢字で書くと「谷地坊主」または「野地坊主」。谷地=湿地にある人の頭のような形もの、というところから呼ばれ始めたと考えられる。ヤチボウズの正体はカブスゲやヒラギシスゲ *Carex augustinowiczii* Meinsh. ex Korsh. など叢生するスゲ類で、密集した根茎が上へ上へと成長することと、冬季の土壌凍結と雪融け時期の流水によって、とつくりを逆さまにしたような、独特な形になるとされている(図3)。釧路湿原周辺では